

2年A組 国語科 単元設計・学習指導案

指導者 細川 美保

1 日時（場所） 令和5年10月30日（月） 13:50～14:40（2年A組教室）

2 教科領域別研究テーマ

言葉による深い学びを通して「エージェンシー」を育む学習指導と評価の工夫

3 研究テーマ設定の理由

「エージェンシー」とは、変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力だと定義されている。今後、よりよい未来社会を築いていく上で必要となる「エージェンシー」を国語科の授業の中でも高めていくことができるよう、教師が学習指導や評価の在り方を工夫していくことが大切であると考え。

昨年度は、「単元を構想する場面」「授業を行う場面」「振り返りを行う場面」において、生徒の学びや課題、意思決定について生徒と教師、生徒と生徒が共有したり、生徒自身が自覚したりすることができるよう工夫した学習活動を展開してきた。成果としては、生徒と教師、生徒同士の対話を通して、生徒自身が単元や授業の見通しを持って、主体性を発揮しながら日々の学習に取り組むことができるようになった。また、課題としては、授業での振り返りを効果的に活用できなかったことが挙げられる。

生徒には、授業での振り返りを通して、自分の成長や変容を自覚するとともに、次の授業・単元での学びにつなげさせたい。教師は、授業での振り返りを生徒にフィードバックするとともに、次の授業や単元の構想につなげたり、学びの見取りにつなげたりしたい。したがって、今年度はこれまでの研究を継続するとともに、生徒の振り返りを生徒自身と教師が次の授業・単元に生かせるようにしたいと考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計（単元名：随筆『枕草子』におけるものの見方や感じ方を捉えよう）

(1) 単元目標

- 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。〔知識及び技能〕(3)イ
- 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)オ
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝えようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ	「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。C(1)オ	随筆の特徴を理解し、言葉の配置や章段の構成の意味を考えたり、表現の美しさを感じたりしながら、古典を楽しもうとしている。

(3) 指導計画（全7時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・既習の随筆について振り返ることを通して、学習に対する課題意識を持つ。	態		・既習の随筆三作品を振り返り、随筆の特徴や学習したことをまとめている。 (ワークシート)
2	・『枕草子』の作品について知り、第一段の現代語訳をする。 ・3時間分の学習計画を立てることを通して、学習への見通しを持つ。	態 知		・パフォーマンス課題を解決するために、どのような課題や活動が必要か考えている。 (観察) ・古語の意味や古文の特徴を踏まえ、第一段の内容を理解している。(ワークシート)

3 本時	・「春はあけぼの……」の段の特徴を伝えるために、「第一段とは」などにつながる言葉を考える。	思		・仲間との対話を通して、第一段に表れたものの見方や考え方について自分の考えを持つことができる。(ワークシート・観察)
4 ・ 5	・学習課題解決のための話し合いを通して、作品を読み深める。	思		・学習課題について、既習の随筆作品と比較したり、他の章段を読んだり、全体像について考えたりしながら、作品を読み深めている。(ワークシート・観察)
6	・パフォーマンス課題	知 思 態	○ ○ ○	(パフォーマンス課題による評価) (支援)話し合いで出た仲間の意見をロイロノートで共有し、既習の内容からパフォーマンス課題につなげやすくする。
7	・学習の振り返りを通して、随筆や古典を読むことに対する学びや考えの変容や自己の成長を自覚する。	態	○	・自己の考えの変容や成長、学習したことを自覚し、それらを今後の学習に生かそうとしている。(ポートフォリオ)

(4) パフォーマンス課題

近隣の小学校の先生から「中学生から『枕草子』第一段の魅力について小学生に伝えてもらいたい」という依頼がありました。その小学校では、これから『枕草子』を暗唱することになっており、小学生になぜ暗唱するのかを考えさせ、暗唱への意欲を高めたい、とのことでした。小学生に、あなたが考える魅力を伝えられるよう、2分の手稿を作成しましょう。

5 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒32名は、意欲的に学習に取り組むことができる生徒が多い。グループ学習では、個人が意見を出し合う中で、共感したり反論したりしながら力を合わせて読みを深め合うことができる。『字のない葉書』『徒然草』の学習を行った際には、随筆であることから、生徒達は、言葉や構成に筆者の思いが強く出るのではないかと、ということを考え、その上で課題解決を進めてきた。『字のない葉書』では、4時間分の学習課題を立てる話し合いを生徒が行い、その一つとして「筆者が題名ではない『手紙』について多くの文章を割いたのはなぜか」と第一段落の意味についての学習課題を立てた。『徒然草』の序段では「あやうこそものぐるほしけれ」という言葉に疑問を持ち、他の章段を読むことを通して「ものぐるほし」と兼好法師が記した意味について考えた。多様な章段を読むことを通して、それぞれ自分で納得する「あやうこそものぐるほしけれ」の解釈を行うことができた。また、日本の三大随筆と言われる『方丈記』は教科書に掲載されていないが「ぜひ併せて学習したい」という生徒の意見があり、学習に取り入れた。第一段を読んだ際には「しかも」「また」と強い印象の接続詞が使用されていること、「よどみ」「うたかた」という言葉の使用の意図、「人と栖」と「うたかた」の対照など、言葉に注目した意見が多く出た。また、『徒然草』の序段の最後が「あやうこそものぐるほしけれ」であったことと関連付け、章段の最終の文には重要な意図が見られるのではないかと予測を立て、学習を進めた。

それぞれの授業での話し合いの様子を見ると、言葉を手がかりに「きっと筆者はこういう人なんだろう」と筆者像に考えが至ったり、「昭和時代だから」「鎌倉時代だから」と書かれた時代に関する既存の知識と結び付けて作品を読み深めたりしている様子も見られた。

本単元では、これまでの経験や知識と結び付け、自分の考えを仲間と共有しながら、『枕草子』を古典作品として、また随筆作品として、何よりも日本を代表する文学作品として読み深め、作品に表れているものの見方や考え方を主体的に捉えさせたい。また、古典の魅力に気付かせ、今後の人生においても主体的に古典に親しんでいく態度を育成したいと考えている。

(2) 単元について

古典を「よく分からない言葉で書かれていて読みづらいもの」として認識している生徒が本学級の3分の2を占め、古典に対して苦手意識が見られる。授業で仲間と共に読み深める時は楽しいが、実力テストなどで自分一人が古文を読むと内容理解に自信が持てないと感じている

ようである。

そういった古文の中において本単元で扱う『枕草子』は「小学生の時に暗唱した文章」として生徒の記憶に刻まれている。また、社会科でも日本三大随筆の一つとして学習をしており、「意味はよくわからないが、冒頭部分は言える」「作品名も作者も成立年代も知ってはいるが、内容はよく知らない」という位置にある。

『枕草子』は自然や四季、宮廷での出来事や人間関係等について書かれた随筆である。『源氏物語』の「あはれの文学」に対し、「をかし」の文学」と評され、清少納言の独自の視点で書き綴られている。第一段は、筆者が四季それぞれの「をかし」と考える時間帯を取り上げ、具体例を述べるというパターンを繰り返し、四季の比較を容易にしている。文体においては「春はあけぼの。」のように短文で、さらに体言止めにすることで、潔い印象を読者に与えている。内容においては、時間の推移に伴う景色の色彩の変化、月夜と闇夜などの比較、風の音や虫の音などの聴覚の描写など、様々な視点で書かれている。また、「をかし」と感じる自然を切り取ってきた最後に人間の生活の様子を描き、「わろし」で締めくくるなど、文章構成の工夫も見られる。

そのような様々な工夫を生徒自身が発見することで、平安時代に書かれた文章を、令和の時代を生きる生徒に、新鮮な文章として捉えさせたい。また、第一段に表れる筆者の観察力の鋭さや表現力の豊かさ、構成力の高さなどを自分たち自身で読み取らせることで、他の章段への読書意欲を喚起させるとともに、古典や随筆の面白さについても考えさせたい。

(3) 指導について

本単元の学習において、国語科の見方・考え方を働かせて、言葉による「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、以下のような指導を講じる。

ア 多様な視点での読みを創造する単元構想

今回は大単元と小単元を設定した。大単元は「随筆を読み味わおう」とし、『字のない葉書』『徒然草』『方丈記』『枕草子』の学習を設定する。その中で、各作品を教材とした小単元を構想する。また、四つの教材の振り返りを一枚のポートフォリオにまとめ、学びの蓄積を行うとともに、その蓄積を次の教材へと生かしていくよう工夫する。

(7) 随筆としての読み

本単元までに『字のない葉書』『徒然草』『方丈記』と時代を遡る形で随筆作品を読み進めてきた。第一段落や序段の言葉・構成に疑問を持ち、それらを解決する中で、筆者が何についてどう考えたか、どう感じたかを考え、作品を読み深めてきた。ここまでの学習活動において、筆者の体験や経験を身近に感じるとともに、自分だったら、その時代に生きていたら、と自分事として捉えてきた生徒も多い。そこで、これまでの読みや振り返りを生かして、本作品に表れている筆者のものの見方や考え方への読みを深めるとともに、随筆の多様な魅力に気付かせたいと考えている。

(イ) 古典としての読み

昭和・鎌倉・平安時代と三つの時代の随筆を読む中で、時代や筆者が置かれている環境がどのように作品に反映されるのかを考えさせたい。また、古人の見方や考え方に触れ、自分自身の生き方と照らし合わせる中で、時を隔てても現代に生きる自分たちと通い合うものがあり、そのときそのときを生きていた、人間としての感性や魅力が言葉や表現に表れているということを感じ取らせたい。さらに、古典に親しみを持ち、学ぶ意欲へとつなげていきたい。

(ウ) 音読を通じた読み

授業の初めには音読を取り入れ、言葉そのものと向き合う時間を設ける。音読をすることは、個人で言葉や文章、作品に込められた思いなどと向き合うための第一歩であると考えている。音を通して言葉に触れることで、見過ごしていた言葉を改めて見つめたり、その言葉の意味を考えたりするきっかけとなり、文章を読み深める手立ての一つとなるのではないかと考える。また、本作品のリズムを体感するなかで、古典の世界に親しむとともに、学習課題に迫る一助としたと考えている。

イ 学習者による課題設定

主体的に対話し、学びを深めるために、作品自体や言葉、表現や文章に対する生徒の課題意識や目的意識を大切に学習課題の設定を行う。今回は随筆作品を学習してきた中での最後の作品となるため、『徒然草』や『方丈記』で立てた課題をなぞる可能性が高い。前述の2作品と同様、作品の冒頭を学習するため、その後の章段につながるような課題、さらには自分の疑問が解消し、パフォーマンス課題の解決の手がかりとなるような課題を設定することは、自分の学習に責任を持つことにつながると考える。

(1)主題 古典作品を読み味わおう

○仲間との対話を通して、第一段に表れたものの見方や考え方について自分の考えを持つことができる。

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準 (評価方法)
1 既習の随筆について振り返る。 (一斉)	2	○随筆を学習する過程の中で、物語や小説と異なっていると感じたことを発表しよう。 ・言葉に直接的な筆者の考えや感性が表れている。	○これまでの随筆の学習の蓄積を生かすために、「随筆を読み味わおう」のポートフォリオを確認させる。
2 学習課題を提示する。 (一斉)	5	「春はあけぼの……」の段の特徴を伝えるために、「第一段とは」などにつながる言葉を考えよう。	○個人の学習目標を達成させるために、「第一段は」「清少納言は」などから生徒に選ばせるようにする。
3 本文を音読する。 (一斉)	5	○歴史的仮名遣いや言葉の切れ目に気を付けながら、本文を音読しよう。	○言葉のリズムを感じさせるとともに、言葉の見落としをなくするために、ペアで音読させる。
4 学習課題の解決に取り組む。 (1)第一段の特徴を考える。 (個人) ↓ (小集団) ↓ (全体) (2)特徴を伝える言葉を考える。 (個人) ↓ (全体)	35 (10) (25)	○第一段にはどのような特徴があるだろうか。 ・「をかし」の多用。 ・短文。 ・自然を細かく描写している。 ・笑いのオチのように「わろし」が使われている。 ・「春」「あけぼの」と始まりを感じさせる言葉が最初にきている。 ○特徴を伝える言葉を考えよう。 ・季節を多様な視点で切り取っていることから、「読者は新たな視点を得ることができる章段である」。 ・主張と事実が明確で文も簡潔、さらに文章構成もしっかりしているため、「読者にとってはわかりやすく、読みやすい章段である」。 ・筆者の価値観を知ることができ、他の章段も読みたくなるため、「他の章段を読むきっかけとなる章段である」。	○既習の随筆と比較し、考えやすくするために、『徒然草』『方丈記』の序段をロイロで見られるようにする。 ○次の活動に生かすために、特徴から生まれる効果について考えさせる。 ○言葉や構成など多様な視点から考えさせるために、前単元で立てた仲間の読みのテーマを思い出させる。 ○仲間が納得する言葉を選択させるために、三角ロジックを意識させる。 ○全体に示しやすくするために、ロイロノートで提示しながら言葉の内容を説明させる。 ◎仲間との対話を通して、第一段に表れたものの見方や考え方について自分の考えを持つことができる。 (発表・ワークシート)
5 本時の学びを振り返る。 (一斉)	3	○今日の学習課題の解決を通してどのような学びがあったか。 ・千年も前の文章であっても構成や文体の工夫などがあることがわかり、昔の人すごいなと思った。 ・『枕草子』は清少納言の感性がちりばめられた作品であることがわかり、随筆だからこその良さがわかった。	○振り返りを次時に生かすために、本時の授業を通して考えたことや学んだこと、仲間の意見で良いと思ったことをポートフォリオに書かせる。

○随筆ということを意識させた読みは、生徒に古典の魅力を気付かせたり、内容を深く読ませたりすることに効果的であったか。